



再生可能エネルギーによる
地方電化モデル構築プロジェクト

ケニアでは、今日も約7割の世帯が電気の無い生活を送っている。日本は、太陽光や風力などの再生可能エネルギーを活用した地方電化モデルの構築に協力し、その普及を支援。教育や保健施設に太陽光パネルとLED照明を設置するなど、人々の生活の質の向上に貢献している。

生活と安全を守る光



地方の教育施設にも明かりが灯った



ダッカ都市交通料金システムICT化プロジェクト

日本では乗車券や電子マネーにも使われている「非接触ICカード」の技術が、都市部の人口増加が進むバングラデシュで2012年、国営バスの2路線に導入された。交通渋滞緩和のほか、不正乗車がなくなり運賃収入の増加にもつながっている。

公共交通の利用を便利に



バスの料金支払いが簡単になり、
カードの利用者も増えている
©エヌ・ウェーブ



デリー高速輸送システム建設事業

都市化が進むインドでは、公共交通インフラの整備が急務となっている。一日約230万人が利用するデリーメトロは市民の重要な足だが、女性がトラブルに巻き込まれることも多かった。そこで2010年より、各路線の先頭車両に「女性専用車両」が導入された。公共交通機関を安心して利用できることで、女性の社会進出にも貢献している。

女性の電車移動を快適に



女性専用車両の導入により女性の行動範囲も広がっている

きれいな町をつくる



3Rの推進に向け、会合を開いて現状の廃棄物管理の問題点を話し合った



3R及び廃棄物適正管理のための
キャパシティディベロプメント支援プロジェクト

インドネシアでは、人口増加で廃棄物が増え続けている。日本は、ごみを減らすため、「3R:Reduce・Reuse・Recycle」の実施に必要な関連法の整備や行政の廃棄物管理実施能力強化を支援し、廃棄物の削減、適正処理に取り組んでいる。



こんなところに 日本の知恵

日本の暮らしは、「便利」「安全」「快適」など豊かな生活を願う心と人々の努力によって築かれてきたもの。世界の日常生活のさまざまな場面で生かされている日本の知恵を発見しに行こう。

